

ラストライブで感謝

シャンソン 酒場「漣」 56年の歴史に幕

弘前



弘前市のシャンソン歌手・秋田漣さんが営む同市桶屋町のシャンソン酒場「漣」の最後を飾るライブが30日、同店で開かれた。店を56年間続けた秋田さんは、

シャンソンや津軽弁を交えたトークでファンらに感謝の思いを届けた。秋田さんは24歳の時に店をオープン。同市で生まれ育った秋田さんの歌声や津

軽弁を楽しもうと、国内外から多くの人が来店したが、コロナ禍を境に客足が途絶えたほか、近年の体の不調などもあり、閉店をラストライブで感謝の思いを込めながら、シャンソンを歌う秋田さん

決断した。

閉店ライブは20日にスタート。計6日行われ、全日満席状態だったという。最終日に秋田さんは「命

の限り声を出したい」と、シャンソンの名曲を歌い上げたり、シャンソンのメロディーに合わせて津軽弁の詩を朗読したりした。俳優の西田敏行さんや作家の五木寛之さんら著名人の来店エピソードも紹介。秋田さんはファンらに「ありがと」と感謝し、「人生は美しい」で幕を閉じた。

横浜市の平野美香さん(65)は「漣さんのお店で津軽弁の魅力を知った。(閉店は)残念だけど、終わりはさすが漣さん。素晴らしいかった」、秋田さんの活動を応援する「漣」友の会の宮永崇史会長(64)は「漣さんが人生を懸けてやってきたお店の終わりを盛大に迎えられて感慨深い」とそ

れぞれ話した。

最後のライブを終えた秋田さんは「全国のファンのおかげもあって、シャンソ

ンを歌うという自分で決めたことをやり通すことができたのは幸せ」とやり切った表情を見せ、「今後、思

い入れがあるこの場所を受け継いでくれる人が現れてくれたらうれしい」と語った。(二戸崇矢)